

新年度がスタート

平成23年度がスタートし、最初の行事第1回理事会には40人の理事以上の役員が出席し、平成23年度の日本篆刻家協会運営の方向性が確認された。引き続き全国各地からの会員が一堂に会する新年会が、大阪府中央区の錦城閣で開催され205人が参加した。



新年会に先立ち開催した理事会

日本篆刻家協会会報

第6号 平成23年3月15日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX 072-760-3853
E-mail: info@n-tenkoku.jp



和気藹々と談笑しながら



(上) 福引きジャンケンで豪華景品をゲット (左下) 新年の挨拶をする山下理事長 (右下) 閉会の挨拶をする井谷副理事長

新年度に当たっての所感

— 会員の皆様へ —

理事長 山下方亭

既に新年会と総会前回の二回の理事会をもち、本年度の総会において事業計画が承認されました。第二七回展は事実上スタートしておりますが会員の皆様へは二七回展の出品票が届いており製作に勤しんでいると推察致します。皆様にはその資格において努力の結晶をご出品下さい。五月の日本篆刻展では素晴らしい作品を発表して下さい。

— 台湾印社との交流展 —

さて海外との交流は本年は台湾印社との交流として四十数名の台湾印社社員の作品を交流展示致します。ご期待下さい。また特別展観としては「唐代の書と文物」と題して唐代の書や文物を会員収蔵の品々を借用して展示致します。現在調査中であり、どの様な唐代の書や文物が甞まるかは未定ですが期待出来ると思われれます。

— 中央研究会 —
展覧会は当然のことながら年一回の機会にその結果を求められます。又、一方で出品して会場で作品を鑑賞する事が最も大切なことです。その上で出品者懇親会に出席しましょう。

— 年間行事として —
八月の中央研究会があります。日本篆刻展と共に協会事業の二枚看板です。詳細は年間事業計画で発表されますが、内部、外部の講師による講演や分刻印譜もあり盛り沢山の企画がなされておりあります。篆刻の向上と教養に是非ご参加下さい。参加しないでは折角の企画も実を結びません。

— 訪台旅行 —

一〇月には台湾印社との交流の為、訪台旅行もあります。友好交流と研修を兼ねての訪台であり、皆様のご参加を心よりお待ちしております。詳細は印社代表にお聞きください。いずれの事業も皆様の参加を期待しております。

第三回中央研究会報告

第三回中央研究会が八月二日～三日の二泊三日の日程で、昨年度同様に神戸舞子ビラにおいて行われた。参加者は昨年より約二〇名増加して、一七〇名の本協会々員が全国から参加して開催された。

本年の研究テーマは大きく①楹聯の研究②シルクロードの印章の研究③側款採拓の実習の三点に設定された。

「中国名家楹聯の研究と鑑賞」の講義をおこなう井谷副理事長



第一日、受付終了後一三時から山下方亭理事長の開会の挨拶と分刻課題の発表割り当てがあり、その後研究テーマの一つである楹聯の研究が「中国名家楹聯の研究と鑑賞」と題して井谷五雲副理事長によって行われた。会場の舞子の間には約五〇点の楹聯が展覧され、今年本協会によって刊行されたばかりの『中国名家楹聯集』をテキストにして行われた。(一)楹聯の様式と歴史(二)展覧作品の作家紹介と作品解説を中心に、井谷副理事長がユーモア



50点の楹聯の展示は社観

に富んだ口調で分かりやすく講演された。この『中国名家楹聯集』は本協会々員の所蔵するところのものを提示していただき、研究部が

側款の刻と採拓の実技講習



一年近くの時間を要してそれを整理し、解説を施して製作したものである。その前年の『日中名家刻印選』に引き続き大部の刊行物である。

第二日、午前中は各自課題分刻の製作に取り組む。同時に小朴圃・黄平齋・池田泥異・出田塘葭・東尾高岳の五人の先生方による側款の刻と採拓の実技講習が行われた。日頃から篆刻における側款の重要性は、山下理事長から幾度となく話のあるところであり、それを受けて今回の実技講習は昨年に引き続き行われた。各先生方の採拓方法には少しの差異はあるものの見事な手腕で、受講者はその技法を学んで収穫が多かったと思われる。

午後は「シルクロードの印章について」という演題で小田玉瑛先生に講演をいただいた。本年の外部講師として東京からお招きした女流篆刻家の小田玉瑛先生は、早くからシルクロードの印章を蒐集され、その研



講演する小田玉瑛先生

究成果を著作にまとめておられ、篆刻界では夙に有名などころである。先生ご所蔵の品々を展覧し、実際に

手にとつて説明をいただき、楽しく充実した時間であった。小田先生には第一日始めからこの研究会にご参加いただき、この二日目の懇

親会にも同席していただいた。単に研究だけではなく小田先生と親睦を深め交流することができたことは、意義深いものであった。

第三日、各自製作した分刻課題を提出し、平田副理事長から講評があり、午前一時に閉会・解散した。

平成二三年の中央研究会は八月二〇日(土)から二二日(月)の二泊三日の日程で、同じ舞子ビラで開催することが決定している。さらに多くの参加を期待して報告とする。(研究部)



「シルクロードの印章」の展示風景



現物で解説する小田先生(右)

平成23年度総会が2月13日、ホテル大阪ベイタワーで開催され、全国各地から216人が出席した



講演する西嶋慎一先生



また台湾との海外交流を行う計画があり、井谷副理事長から詳しく説明がなされた。

午後二時からの総会は、大村代表理事の司会で黙祷から始まり、議事は山下理事長が議長を務め、平成二二年度事業報告、同決算報告、同会計監査報告、平成二三年度役員選出、同事業計画、同予算案が提案されいずれも原案どおり承認決定された。本年度は北海道展、

総会に先立ち開催された理事会



総会に先立って企画委員会、第二回理事会が開かれ、高齢化に伴う今後の協会の運営方針について理事長から提案があった。また

顧問の邊見仿厓先生がご逝去されたとの報告があり、出席者の落胆の意は隠せなかった。心からご冥福をお祈りいたします。

日本篆刻家協会平成二三年度総会

総会に引き続き講演会が開催された。講師は書道文化研究家の西嶋慎一氏「梅舒適先生をめぐる」と題して講演いただいた。前理事長のエピソードを中心として、現在及び今後の篆刻のあり方を示唆していただいた講演であった。

続いて午後

四時から懇親会が開催された。西嶋講師を囲んで和気藹々とした雰囲気

で、最後には新役員の紹介もあり、参加者は交流を深め合っていた。
(総務部)



懇親会のなかで新理事等を紹介



全国各地から参加の会員が交流する懇親会

落ち着いた雰囲気のある会場

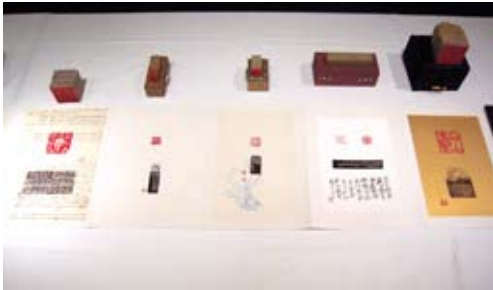


日本篆刻家協会 北海道展報告

日本篆刻家協会北海道展は三月一日から六日までの六日間、札幌市大丸藤井セントラル七階スカイホールで開催された。



印譜を手に取り鑑賞



役員による印影と刻印



講習会で講演する山下理事長（中央）

北海道展は日本篆刻家協会が主催し、地元北海道の旭霽印会、北海印社が協力した。協会役員六〇点、地元会員札幌二四点、旭川一七点の計一〇一点が四方の壁面に、会場中央の机上には常務理事以上の役員二五人による、折帖にまとめた印影とその刻印が展示された。北海道ではこのような大作を見る機会がないため、大変な好評を博した。

この機会にと、講習会が五日午後から札幌第一ホテルで開催され、会員の札幌一七人、旭川八人と一般市民九人が参加した。山下理事長による印の歴史、珍しい袖珍印譜の展示と詳しい説明の後、大村高陵、酒居石荘、中島春緑各代表理事からは作品作りの過程をポイントごとに添削を含めて指導があった。



挨拶する山下理事長

また同日一八時から同所で祝賀懇親会が開催され、来賓の読売新聞北海道支社総務部次長事業



代表理事による指導風景

井谷副理事長の音頭で乾杯



課長金丸雄志氏、読売書法会理事上山天遂氏をはじめ、日本篆刻家協会山下理事長ほか役員、全国各地から参加の会員、地元札幌、旭川の会員あわせて五〇人が出席した。北海道を代表する民謡の江差追分、ソーラン節などを地元が披露すると大村代表理事

「サンケントリオ」(三人のケンちゃん)



がご当地の民謡をと、どんどんと盛り上がりを見せ、尾崎、井谷、平田各先生トリオによる「札幌は今日も雪だった」のしびれるようなコーラスに一層熱気をみせ盛大な懇親会となった。

六日間の来観者は延べ七五一人で、中野北浜日展審査会員など地元書家も来場、特に役員の方の先生方の大作に関心をもち、見られていた。一般の来観者も一点ごとじっくり鑑賞され、印と書の調和に感動していた。また、地元会員は講習会や展示作品を見て新たな発見、更なる意欲を掻き立てられたに違いありません。(北海印社・竹田石濤)

七月課題「長令宇宙新」

役員 (多田龍淵選)



繁治



桂鵬



睦苑



祥風



容甫

常任委員 (佐川大羊選)



章石



拓石



一穂



素月



伯龍



龍山



立女



誠二



芝蘭



紳丘

委員 (南岳泉露選)



尚石



紅絲



韶暉



究石



道男



桃華



翠龍



晋作



碧峯



正陽

會員 (長谷川歸海選)



彬陽



青濤



外茂一



扇舟



大



ヨウ子



玉峰



久利江



香堂



仰風

一般 (久松蒼雲選)



公一



公朗



佳恵



弘子



史郎



碧翠



正男



桃苑



保夫



菰田

八月課題 「守以静」

役員 (小林圃選)



杏葉



祥雲



容庸



踏青



克彦

常任委員 (古溝幽畦選)



燕安



壽江



和香



瑞邦



九郎



直佑



素月



拓石



静雲



伯龍

委員 (御手洗眉山選)



牛石



花嶺



康風



映舟



早知子



奎玉



容史子



尚石



平峰



晋作

會員 (保田昌石選)



ヨウ子



行石



典扶



凌峰



大



祐輔



扇舟



誠三



忠義



龍生

一般 (渡邊和琴選)



弘子



勝山



公一



史郎



顔了



桃苑



石舟



嫩碧



秀華



公朗

九月課題「三省」

役員(中島春緑選)



莊夢



踏青



芳月



祥雲



董圃

常任委員(伊佐治祥雲選)



碧草



燕安



鏡水



錦風



和香



名華



美津子



瑞邦



敏子



桃山

委員(石原豊玉選)



笙鶴



和代



碧泉



早知子



静山



蒼洋



蘇西



墨石



道男



椀泉

會員(市川兩儀選)



泰道



隆志



青濤



明



ひふみ



通水



博夫



忠義



忠義



翠汀

一般(伊藤雅夫選)



保夫



弘子



菰田



佳恵



邦子



秀華



豊



勝山



顔了



嫩碧

十月課題 「長生安樂」

役員 (山下方亭選)



董圃



孝風



吳山



翠女



正歩

常任委員 (大原邦舟選)



汀華



見聲



智舟



九郎



名華



龍神



博石



箕山



瑞邦



紳丘

委員 (喜多芳邑選)



叢映



早知子



雲堂



碧泉



尚石



芳桂



蒼洋



啓子



美智子



象堂

會員 (黃平齋選)



英昭



玉峰



隆志



誠三



大



守



正明



倫子



蒼慶



彬陽

一般 (榊原晴夫選)



碧翠



一



桃苑



公一



勝山



彌太彦



公朗



石舟



保夫



史郎

十一月課題「祥雲」

役員(井谷五雲選)



正歩



祥雲



穆風



踏青



容甫

常任委員(佐川大羊選)



立女



汀華



静雲



博石



箕山



蘭雪



游魚



芝蘭



朱華



美津子

委員(南岳杲雲選)



尚石



静山



叢映



容史子



平峰



緑



雄山



粹香



桜泉



正陽

會員(長谷川歸海選)



蘆山



華紅



大



蘭翠



正甫



榮子



博



啓



公子



翠汀

一般(久松蒼雲選)



公一



公朗



智子



秀華



嫩碧



彌太彦



史郎



碧翠



保夫



一

十二月課題「辛卯」

役員(尾崎蒼石選)



踏青



芳月



満喜



正歩



愛

常任委員(古溝幽畦選)



蘭雪



芝蘭



一六廬



游魚



博石



紅舟



征



拓石



直佑



九郎

委員(御手洗眉山選)



緑



和代



翠郵



康風



早知子



羊碩



象堂



道男



啓子



一雄

會員(保田昌石選)



雅良



功勝



行石



芳泉



乾石



啓志



隆峰



芙美子



龍生



申隆

一般(渡邊和琴選)



勝山



豊



弘子



公一



碧翠



溪州



嫩碧



公朗



顔了



世周

月例作品出品者7月

Table listing artists and their works for July. Columns include artist names (e.g., 役員, 常任委員), their names, and their respective works.

月例作品出品者8月

Table listing artists and their works for August. Columns include artist names (e.g., 役員, 常任委員), their names, and their respective works.

月例作品出品者9月

Table listing artists and their works for September. Columns include artist names (e.g., 役員, 常任委員), their names, and their respective works.

月例作品出品者 10月

Table listing artists and their works for October. Columns include artist names (e.g., 宮井紅舟, 田中九成), titles, and other details. Includes a '常任委員' (Regular Members) section.

月例作品出品者 11月

Table listing artists and their works for November. Columns include artist names (e.g., 湯淺翠嶺, 倉野看雨), titles, and other details. Includes a '常任委員' (Regular Members) section.

月例作品出品者 12月

Table listing artists and their works for December. Columns include artist names (e.g., 龜尾伯龍, 銀田白峰), titles, and other details. Includes a '常任委員' (Regular Members) section.

西泠印社国際篆刻選抜大会

中島春緑氏が 西泠印社名誉社員に

社員に選ばれた10人(右から4人目 中島春緑氏)



昨年九月、中国杭州に於いて開催の西泠印社主催、西泠印社国際篆刻選抜大会が行なわれ、中島春緑氏が最終審査に於

いて西泠印社名誉社員に選ばれた。

審査は、九月二六日、西泠印社副社長の劉江、韓天衡、陳振濂、朱関田、李剛田、童衍方各氏他十人と日本の四人の審査員(小生のみが参加)により、杭州華辰国際飯店大ホールで行なわれた。中国各地から選出の篆刻作品が八〇〇点、側款拓作品二〇〇点、日本から約九〇点、台湾一〇点、韓国二〇数点が出品され、審査に当たっては公正、公平を旨として厳正に行なわれた。審査方法の概略は、一度落選とした作品からまた拾い上げる、と佳い作品を見落とさないことに注意し、その繰り返しにより最終的に篆刻作品八点、側款作品二点を選んだ。この中に中島春

緑氏の作品が入り、十一月一〇日の最終試験に挑み、見事名誉社員となった。なお、日本篆刻家協会評議員以上で出品参加四一人中、南岳杲露氏の優秀賞の他、松田泰軒、足立瑠泉、中村葉舟、東尾高岳、喜多芳邑、池田泥異、出来芳草、松本雅至、出海太学、太田桂翠、中島大夢、出田塘菴、坂本舜華、下井嶂葉、早川聰芬、黒田玉洲、古溝幽畦各氏が入展した。(尾崎蒼石)

西泠印社社員に推挙されて 中島春緑



書の道に志して早くも五〇年が過ぎた。若い頃に篆刻に興味を持ち、参考図書、印譜類等を集めて独学する。ある時、会津八一の随筆集を読み、中国興味の強い秋草道人が苦勞をしてやっと念願の呉昌碩、石鼓文真筆を入手した事を知り、私も中国書画・文物に興味を持つことになる。以後上京した折りは神保町古書街で終日古書を探したり、各地の書道専門店



受賞作品

青鏡忘詠 小朴園

「印神の助け」

書は一回性の芸術と言われ、基本的にはうまくかけなかったからと言って、補筆をして直すことは禁とされている。一枚だけで満足がいけば、それが一番よいのだが、そうでなければ何枚も何百枚も書くこととなる。その中で練度が深まったり、逆に慣れすぎて感動が少なくなったりもするわけではある。

その書に対して篆刻は一回の刻で満足できないければ補刀が認められている。というより補刀を前提として仕事が進められる。勿論補刀をしないことに越したことは無い。石井雙石は確か補刀することを嫌ったと記憶しているが…。

ところで補刀とは直接の関係はないのだが(結果として補刀に繋がる)、奏刀する中で石質が悪かったり、力の加減がうまくいかなかったり、意に反して大切な線等が欠けてしまっと思わずヒヤッとしたことのある人は多いことと思うが、

を回り書画・文物の収集を始めて楽しんで行く内に、文人憧れの聖地である中国の西泠印社に注目して、書画の精神の髄を学び「西泠印社中人」を若かりし頃に夢を抱く。この度は計らずも仲間の皆さんのご支援をいただき、西泠印社社員の仲間に入れていただく事になり、感無量で

実技試験の書法・篆刻作品の課題制作を終えて(11月10日杭州星都賓館)



ありますが、それよりも責任の重大さを身にしみています。第です。

結果としてその自然の欠けが一番生気があり、自分が刻した線の何と平凡なことか、と感ずることがママあるものだ。意に反して欠けてしまつたら、それを基として作風を変えてゆくしかない。思えば、篆刻とは今ある不完全な刻の中に潜んでいる美を如何に見出すかという一点にかかっているように思う。その意味で篆刻は如何様にも変わり得るし、その過程の中でどの時点で刀を擱くかである。先のヒヤッとする欠けを、天の神様の命令(助け)と呼んでいる。どうも小生の場合、この神の助けは他の人より多いようで、実にありがたいことである。

偶然欲書



梅雪争香



トピックス

越思篆会研修会報告



六月三日、富山県民会館に於いて日本篆刻家協会山下方亭理事長を招き、越思篆会研修会を開催。約七〇人が出席した。



「印の歴史」、日本篆刻家協会の現状について講演、側款拓本の採り方、転や硯、瓦などの拓を作品に使う様

指導され、出席者全員が採拓実習した。四時間にわたる講演と実技、会員も熱心に受講した。梅舒適先生以来久しぶりの講演にて大変評判が良く大盛況のうちに終了した。
(大村高陵)

本協会吉江翠光評議員の個展が九月一八日〜三日地元南砺市で開催され、入場者総数は一〇二〇人であった。地元紙に次のとおり掲載された。

吉江さん初めての個展

書や篆刻、四〇年の集大成、福光美術館 南砺市吉江野の書家、吉江翠光さん(本名・喜美子)の書・篆刻展(富山新聞社後援)は一八日、同市福光美術館で始まり、書業四〇年の集大成となる書や篆刻の作品三五点に来場者が目を凝らした。

吉江さんは一九七〇(昭和四五年)年に日展会友の書家、中島春緑さんに師事して以来、数々の書展で入賞



を重ね、四〇年の節目を記念して初の個人展を開いた。会場には吉江さん自身の書や篆刻に加え、中島さんの作品「海老図」も特別展示された。また、中国古代の青銅器二点が展示され、器に刻まれている銘文の拓とともに来場者の注目を集めた。
(富山新聞 二〇一〇年九月一九日)

不華篆会習作展XVIII



不華篆会習作展XVIIIが九月一七日から一九日まで伊丹市立工芸センターB展示室で開催された。同会場で開催中の企画展示のテーマに合わせ、本年は「夢」をサブテーマに生活の中の書・篆刻、を掲げ、会員二人がオーストリアの陶器、コースター等紙加工類、ランプ、袋物等布類、彫金ジュエリーや鉄筋を加工したもの等々工芸的作品計四三点を展示した。この展覧会は自由に発表できる場として設けられたものだけに、普段できない自由な発想による作品も見られた。

また、同三日〜六日に丹波市の兵庫県立丹波の森公苑展示ギャラリーで、巡回展として同じ内容で開催された。
(内田真弓)

第二五回畦石舎作品展

一〇月二日〜四日、京都岡崎の日図デザイン博物館において、第二五回畦石舎作品展を開催した。会員の書画篆刻数十点に加え、二十五回を記念して特陳として中国画像石の拓を数十点と、朴圃自用自刻印一五〇選を展観、来場者の好評を得た。
(小朴圃)

第一九回遠邇篆会篆刻展



一二月二日〜七日クリエート浜松展示室で第一九回遠邇篆会篆刻展を開催、来場者数は五八七名でした。今回も作品テーマは自由で作者の



マは自由で作者の手柄が出た、バラエティに富んだ作品が揃い、日頃のご指導や講習会のおかげもあり、篆刻鑑賞が楽しめる作品が多く見られたように感じました。恒例となった分刻は二四節気、印と印影を机上展示しました。書展とは違う篆刻展は興味深いもののように、特に彫った石の実物を見られたのもよかったです。

ご来場くださった方は、どなたも楽しんでくださる作品を見ていただけ「こういう静かな美というのはいねえ」とか「かなり修練しないとこうはならないだろうね。」など、感想をいただきました。
(竹村美智子)

月例課題出品者の皆さんへ

— 会報上の取り扱い変更の経緯説明 —

理事長 山下方亭
次号からの誌面変更に驚かれる事と申します。今回の結果に至った経緯をご報告致します。昨年二月の企画委員会において当協会の会員システムの新規についての予算案が出されました。それによりまずと競書出品者の処理をシステム化について百七〇万円が計上されました。この予算を契機に改めて会報は何の為に刊行しているのかを議論しました。

発刊当初は取敢えず二、三年で見直すことでスタートしました。その折に会員の為の発行に対して篆美からの経緯で一般にも開放して会員に繋げる意見があり会員と一般が出品する案が採用されましたが、有償無償の決定がなされないうまま発行になり現在に至りました。(篆美は五千円の篆社社費現在は毎月三百七、八〇人の出品があり、この数字は無視することも出来ませんが会報は全会員が対象であります。色々議論され午前中の企画委員会で結論の出ないまま、常務理事会に移動。ここでも結論に至らず最終的に理事長に一任されました。その折の意見を集約しますと概ね次のようです。

— 現状の報告と問題点 —

- 一、競書整理システムは導入しない。
- 二、同資格者による競争の無益。印社内を生ずる軋轢。
- 三、審査にあたる常務理事以上の方の負担(ボランティア)の軽減。応募者の書き出し等を軽減したい。
- 四、編集部の負担(ボランティアで行っている)本来の会報としての趣旨が月例課題の方向に偏っている。

以上の様な経緯から出した私の結論が次号からの紙面変更です。今までの月例の編集に当られた編集部と審査員の労苦に感謝し、今後の編集の軽減を計ることが出来るかと考えました。

— 次号からの月例課題出品作品の会報上の取り扱い変更点 —

- 秀作二〇点の印影を掲載(役員は五点)
- ↓各資格で秀作五点の印影掲載
- 全出品者の姓を掲載
- ↓秀作五点、次点二〇人の姓を掲載
- その他の応募者数のみを公表

各印社活動

第一回 関中篆書・篆刻展を終えて



一月五日（七日、関市文化会館において日本篆刻家協会、岐阜県教育委員会、関市文化協会のご支援をいただき隔年で開催している第一回関中篆書・篆刻展を無事終了する事ができました。



五日午前一〇時から開場式、地元関市長、市議会議長、関市議会議長、関市議会議長、教育委員長、教育長ほか多数のご来賓に出席いただき展示会場に華を添えていただきました。

会場の第一室は篆刻作品六九点、主宰平田蘭石所有の硯二八点を陳列、主に漢代から宋代の木や青銅、ガラス硯など珍しい硯が並び来場者の的となりました。第二室は篆書作品二四点、課題作品五一点を陳列、中でも課題作品は肖生印に必ず文字を記し、これに側款、採拓が原則、初めての試みで、それなりに見られる作品を陳列、これも来場者の的となりました。六日の午後五時半から地元の料理店「じゅらく」において、来賓の日本篆刻家協会尾崎蒼石副理事長をはじめ井谷五雲、酒居石荘、小朴圃、久米義山、出田塘葭、稲垣華扇各先生、岐阜篆会地元の先生のほか、多数のご出席のもと一献を交えた。これも楽しいひと時を過ごすことができました。

今回の関中展の入場者は三日間で

六五五人、地元関市での展覧会としては最高位での大人気、これも偏に諸団体並びに関係各位のご協力の賜物と社中一同、感謝を申し上げ、この書面をお借りして厚くお礼申しあげます。
(実行委員長 武井岳峰)

第八回 娵文会展



井谷五雲代表の娵文会の第八回展が、二月九日から一四日の六日間、神戸元町のアートホール神戸にて開催した。薩都刺の詩「織女図」を六三人で分刻し、折り帖仕立てで展観した他、会員六五名が書及び篆刻作品を出品。一日には懇親会を神戸「神仙閣」にて開催したところ、日本篆刻家協会幹部の多くの先生方も出席をいただき、盛会のうちに第八回展を終えることができた。ここにお礼を述べ報告とする。
(井谷五雲)

第七回 篆刻書画作品展の開催

（蒼文篆会章津教室）

二月一日から一九日まで滋賀県立近代美術館で開催いたしました。出品者は蒼文篆会章津教室で学ぶ六名の作品と特別陳列の尾崎蒼石先生「書・篆刻歴五〇年」の記念として作品約四〇点を陳列いたしました。

尾崎先生の作品は、高校時代の作品や二〇代、三〇代と各年代の作品を陳列し好評を博しました。一八日の篆刻実技体験には六〇数名の参加があり、皆さんが



陳列したことが良かったと思います。
(師子堂房翠)

第一六回 好日会書篆刻展を終えて



岐阜中電パレツトルームを会場に一月七日から一日まで、長令宇宙新をテーマに六〇点で開催しました。

日本篆刻家協会の篆刻課題の中から、五顆以上側款拓を付し二分の一半折にまとめた作品、会員各自の選択による法帖の臨書作品、自由作品は半折以上としました。そして会員の要望により私の旧作も並べさせて頂きました。遅々とした歩みではありますが従来より大きい規格に取り組み継続の力を感じました。ご来場の方々に年々の向上と楽しい展覧会であるとの励ましのお言葉を頂き感謝しております。
(田中緑翠)

訃報

日本篆刻家協会顧問で志業を主宰する邊見仿厓先生が、昨年九月下旬脳梗塞で入院治療しハビリと続けておられました。享年八六歳。読書法会参与・日本書芸院参事を務められました。
(長谷川暢海)



— 邊見先生の訃報に接して — 理事長 山下方亭 一月三十一日、顧問の邊見仿厓先生の訃報が日本書芸院より入り、告別式は家族葬にて執り行われた事をご報告いたします。とありました。先生が倒れて入院された話は伝わっていましたが元気になられたらお見舞いに行こうと思っていた矢先でありました。命日は二月二六日（八五歳）余りにも早い黄泉への旅立ちでありました。先生は梅先生の一番古いお弟子さんとして、篆社時代より常に裏方に徹してくれた大先輩であり、先生あつての篆社であった事は余り知られていないと思います。

兵庫県の教育界での功労は無量の事、先生の指導を受けた教え子が現在書道界、篆刻界へ数多くの人材が育っています。先生を恩師とする当協会の役員も多くなることがその証しでありました。普段は寡黙な先生でしたがお酒が入ると饒舌になり書や篆刻を熱く語って止まることを知らず、その薫陶を受けた方々も今となってはありし日の先生の芸術論を懐かしんでいる事でしょう。
— 協会でのご意見番 —

二月二六日（水）井谷副理事長、小代表理事、長谷川常務理事、私の四人で先生宅に弔問に伺いまして奥様と親しくお話をさせて頂きました。亡き先生の思い出話をして書齋も見せて頂き邊見仿厓先生の芸術家としての一端を垣間見ることができました。先生と私は相性もよく協会創設以来常に大先輩でありながら裏方の仕事に徹して頂きました。協会のあり方は一言居士ながら二家言を持ち君のやる事は間違っていないとの助言を頂きました。協会の顧問就任をお願いした時も快くお引受け下さり、理事長として頑張れ！とお言葉を頂いたのが昨日の様であります。

信楽院大誓仿厓居士の霊前でも協会を代表して永年の功勞に対してお礼を申し上げてまいりました。謹んでここに邊見仿厓先生のご冥福をお祈り致します。
合掌

展覧会の案内と報告

展覧会案内

- ▼日本篆刻家協会「北海道」展
会期 三月一日～六日
会場 大丸藤井セントラル七階スカイホール
- ▼随風會(山下方亭)
第二六回随風會篆刻展
会期 四月五日～一〇日
会場 京都市美術館
- ▼第二七回日本篆刻展
会期 五月一七日～三二日
会場 大阪市立美術館 地下展覧会室
- ▼井谷五雲・小朴圃・眞鍋井蛙
第三〇回六齋会篆刻作品展
会期 八月二四日～二八日
会場 京都文化博物館
- ▼畦石舎(小朴圃)
第二六回畦石舎作品展
会期 一〇月一日～三日
会場 京都市日図デザイン博物館
- ▼不華篆会(酒屋石荘)
不華篆会習作展XIX
・デザインとして見る篆刻の展開
・デザインとして見る篆刻の展開
会期 一〇月八日～一〇日
会場 伊丹市立工芸センター
同二日～一六日に丹波市で巡回展
- ▼齊平篆会(眞鍋井蛙)
第一四回齊平展
会期 一〇月七日～九日
会場 大阪くらしの今昔館

協会の行事

- 常務理事会
二月二七日(土)
事務所
- 平成二三年度
第一回理事会
新年会
一月六日(日)
大阪錦城閣
- 第二回理事会
平成二三年度総会
講演会『梅舒適先生をめぐって』
(西嶋慎一先生)
懇親会
二月三日(日)
ホテル大阪ベイタワー
- 日本篆刻家協会北海道展
三月二日(火)～六日(日)
大丸藤井セントラル七階スカイホール
- 予定
- 第二七回展審査準備
四月一日(金)
中央会館
- 第二七回展審査会
四月二日(土)
中央会館
- 第二七回日本篆刻展
〈特別展観・唐代の書と文物(本会員所蔵)〉
五月七日(火)～三二日(日)
大阪市立美術館
- 第二七回日本篆刻展授賞式
五月二二日(日)
ホテル大阪ベイタワー
- 第三回日本篆刻家協会役員展
六月二五日(土)～八月二五日(木)
古河市篆刻美術館

第三回日本篆刻家協会役員展 開幕式・講演会

六月二五日(土)
古河市篆刻美術館

第四回中央研究会

『初世・二世中村蘭台とその周辺』
『菅野梁川の自用印を中心として』
(眞鍋井蛙副理事長)

特別講演

『日本文人画の流れと篆刻について「仮題」』
(山岡泰三先生)
八月二〇日(土)～二二日(月)
シーサイドホテル舞子ビラ神戸

海外交流

台湾印社交流訪台
十月二日(金)～二五日(火)

常務理事会

二月二六日(土)
事務所

企画委員会

事務所からの連絡・お願い

- ①月例課題のミス訂正をお願いします。
五月課題 「惜分陰」 ↓正しくは「惜寸陰」
- ②月例課題応募には必ず会員CDをご記入ください。(記載がなければ一般になります)
- ③雅号の変更は前年十一月～当年五月の展覧会準備期間はできません。
六月から十月の間に協会事務所まで書面で(FAX/MAIL可)連絡ください。
なお、住所変更・婚姻等の氏名変更は随時受付します。

編集後記

☆信じられない未曾有の地震津波災害「東北関東大地震」が発生しました。まさに本稿を書こうとしたときでありました。被災された会員の皆さまに心からお見舞い申し上げます。

十六年前の阪神・淡路大震災がフラッシュバックしてきます。地震もさることながら津波の怖さを見せつけられました。一刻も早い復旧にむけて「全国民が被災者」の気持ちで、私たち一人一人が自分に何ができるか考え、行動したいものです。

☆月例作品に多くの応募をいただいております。会報上の取り扱い変更によりごく一部しかご紹介できませんが、別掲理事判断のとおり皆様のご理解をお願いします。(S)

編集・会報部

酒屋石荘 榊原晴夫 中村葉舟
木村容庸 内田真弓

お気づきのこと、ご意見など事務所までお寄せください。

FAX: 072-760-3853
MAIL: info@n-tenkoku.jp